

1、トミヨ保全研究会と現地見学会が開かれる（9月26日） 新潟市水族館で「希少淡水魚展」が開かれる（10月10日）



▲上：荒川トミヨの現地研修会
下：「マリンピア日本海」で講演会

◆ 9月26日、荒川流域のトミヨの保全・視察研修会がありました。日本ビオトープ協会／北陸信越地区委員会主催の研修会でした。

研修会では、国土交通省の担当者から荒川のトミヨ保全の自然再生工事について報告がありました。また、当会理事の樋口正仁（博士）からはトミヨの氷河期南下が約80万年前であることなどの紹介がありました。

その後、現地3カ所で復活した「たんぽ」（湧水池）と捕獲したトミヨを見ることができました。

この荒川のトミヨはトミヨ属淡水型の鱗板連続型です。五泉のトゲソは淡水型の鱗板不連続型です。鱗板の形が連続か不連続の違いです。実際に荒川のトミヨを見たところ、鱗板が連続している事が分りました。

◆ 翌月、10月10日、今度は新潟市水族館「マリンピア日本海」さんで、「守ろう新潟の希少淡水魚展」特別講演会が開かれました。今回の希少淡水魚はシナイモツゴとトミヨ属淡水型（イバラトミヨ）が主題でした。当会の理事、樋口正仁が、トゲソの会の活動などを紹介し希少淡水魚の保護活動や課題を講演しました。

新潟県は10月にレッドデータブックを見直し、新たに選定を公表しました。それによると、絶滅危惧Ⅰ類は2種から4種と増えています。ちなみに、トミヨ属淡水型（イバラトミヨ・五泉俗称トゲソ）は従来どおりⅠ類、ニホンイトヨがⅡ類からⅠ類へと危惧度合いが高くなりました。

2、下越地区郵便局長さん、坂田家清掃ボランティア（9月27日）



▲坂田家の杉枝片付けで汗を流す

◆ 9月27日、下越南地区郵便局長会の皆様15名が国登録文化財坂田家のボランティアに来てくださいました。今回は猿和田郵便局長さんの紹介があり実現したものです。

日頃出来なかった庭の草刈り、杉の小枝片付け薪小屋の整理など、大変な作業を取り組んでいただきました。

会では終わってからトゲソの会活動を理解していただくため、パワーポイントで説明させていただきました。また、坂田家の見学と歴史を説明させていただきました。大変ありがとうございました。

3、南小3年生ビオトープ調査、今年モトゲソを確認(10月8日)



今年最後の学校支援は、南小学校ビオトープのトゲソ生息数調べでした。南小は井戸から地下水をみ上げており、湧水があるのでトゲソが生息可能です。

南小は、調べたら2000年(H12年)にトゲソの分散飼育を始めたので、何と15年も生息を続けていることになります。今年、89匹が確認されました。春に産れた2cm以下のトゲソがいたので、立派にビオトープの役割を果たしています。今年3年生が張り切って校庭にある池に入り、トゲソの生息数を調べてくれました。

4、生息数調査を実施。北越「まごころの会」さん応援(10月24日)

◆「トゲソの生息調査」が、10月24日(土曜日)に行われました。

今年で、連続15回目(年目)となりました。幸い天候は恵まれ、多くの皆さんから手伝いに来ていただきました。何時もの新潟大学と日本自然環境専門学校の学生さんの他に、今回は北越銀行「まごころの会」さん18名が忙しい中、応援に来ていただきました。

土堀水路の生息数は徐々に回復傾向にあります。昨年は20匹でした。今年約150匹程度の個体数を確認することができました。猿和田地区は230匹余りのトゲソが生息確認されました。

土堀の生息区域はやや下流部に片寄っており、増水や自然環境の変化によって数が大変化する危険があります。体長は3cm~4cm台が多く、次世代のトゲソが生育しつつあることがうかがえました。

これで、生息数については一定程度の世代交代が可能な状況に戻ったと思われます。しかし、トゲソの生息地が置かれている環境は湧水量の問題を含めて外来種問題など、厳しい状況は変わりません。

五泉トゲソの会は、今後も生息環境の状態を注意深く見守って参ります。多くの方々のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。調査の手伝いをいただいた皆様ありがとうございました。



▲上: 開始前の挨拶と調査方法の説明

▲下: 北銀「まごころの会」様の手伝い



▲お昼に会の活動を説明



▲学生さんの強力な助っ人



▲体長などの調査を記録

5、連台南地協の皆様など「さといも掘り」に参加（11月7日）



▲今年のサトイモは大粒でした。

少人数でしたが11月7日（土）、労働団体の新潟連合南下越地協の皆さんが、トゲソの会が斡旋するサトイモ堀にお出でになりました。

今にも雨が降りそうな天気でしたが、実際に畑に行きサトイモ堀を行いました。サトイモは、親芋、子芋、孫芋と三代にわたって成る目出度い作物です。生産者の熊倉さんから説明を受け堀方の体験をしました。掘った後は坂田家でサトイモ汁をいただきました。

また11月1日には、同じく坂田家を訪れた東京のお客様がサトイモ堀を体験していかれました。

6、新潟県の第20回環境賞特別賞を受賞する（11月15日）

11月15日、第20回新潟県環境賞の表彰式が朱鷺メッセホールでありました。トゲソの会は特別賞を受賞しました。

新潟県は、すぐれた環境保全活動に対し毎年環境賞を贈っています。県内の環境保全活動団体に対して意欲を高め活動促進を図ることが目的です。

当会は平成11年に受賞しています。

特別賞は、これまでに新潟県環境賞を受賞した団体で現在も活動を継続し成果を上げている団体を対象に募集されました。

その結果、県内一般の部で2団体の内に選ばれ、名誉ある受賞となりました。

表彰式は、高橋理事長が代表して表彰状を受け取りました。

今回の受賞を励みに、理事一同、今後トゲソの保全活動を継続し発展させていくことを改めて誓ったところで。これも、皆様の支援のおかげと感謝申し上げます。



▲ 記念撮影・高橋理事長他

7、村松小4年生、街頭でトゲソ保護のPR活動を実施（11月19日）

村松小の4年生が、トゲソの学習が始まって以来、初の市民への呼びかけを実現してくれました。

かわいいトゲソさんが何と50匹が五泉市村松のスーパーさんにやって来てくれたのです。そして、来店の方の皆さんに「水を汚さないようにしましょう」と手作りのチラシを配ってくれました。

新潟日報さんが取材をしてくださいました。そして、大きく



報道してくれました。(下記写真)

トゲソの子どもたちの側には、高橋理事長・井田副理事長が「トゲソの親」のように嬉しそうに見つめてくれていました。

◆ 今年、村松小は6回ほどトゲソと水の学習に取り組んでくれました。村松小は、トゲソの生息地観察、水のCODテスト、水の浄化実験などをしてきました。

一番の特徴は、長年、近くの滝谷川で水生昆虫を調べることで「水の汚れ」を調査しています。今年は、滝谷川のゴミ拾いもしたようです。こんな働きかけが出来たのは本当に熱心に取り組んでくれた担任の先生方のおかげです。

なお、10月14日には、学校発表会の事前練習として公開授業にも出席させていただきました。



▲11/21新潟日報さんの報道記事

▲7/3滝谷川の水質調査

▲10/14 学校発表会の練習授業

8、建築士会様、坂田家家屋を調査(12月5日)



▲主屋外観を調査する調査員

12月5日、新潟県教育委員会から委託を受けた新潟県建築士会さんが坂田家を訪れました。調査員4人は坂田家の建物や蔵などを調べていかれました。これは「近代和風建築」について全県で調査している一環とのことでした。主屋では梁の太さや和釘などに注目して、建物の構造、外観などを写真などに撮っていかれました。今後、さらに必要であれば2次調査がされるそうです。



土堀の十字路に案内版が取り付けられました。これは国登録文化財「坂田家」・県名水指定「どばしっこ清水」、それにトゲソの生息地を案内するものです。

これでイベントの際に、車でお越しの方は少し迷わなくてすみそうです。五泉市環境保全課より設置していただきました。

- 特定非営利活動法人 五泉トゲソの会 理事長 高橋荘三
事務所 住所 959-1645 五泉市土堀 295 番地 月・水・金 午後より事務所在宅
電話 0250-47-4439・FAX 0250-47-4440 メール togeso@jeul.ocn.jp
- 事務局 住所 956-0862 新潟市秋葉区新町 2 丁目 8-10-1 中村吉則方
電話・FAX 0250-22-0271 メール togeso@beige.plala.or.jp

■ ホームページ <http://www.geocities.jp/gosentogeso/index.htm>

五泉トゲソの会は Facebook で発信しています。 <https://www.facebook.com/togeso>